

報道関係者の皆様へ

2013 年 9 月 10 日

とらや東京ミッドタウン店ギャラリー
第 30 回企画展「甘いねこ展」詳細

とらや東京ミッドタウン店ギャラリーで 2013 年 9 月 25（水）～12 月 16 日（月）に開催する企画展「甘いねこ展」の詳細をお知らせいたします。

●新商品

今も昔も変わらず多くの日本人を惹きつける「ねこ」を題材に、新しく 3 つの和菓子を販売します。ねこと日本人は奈良時代には既に親しく暮らしていたという記録がありますが、とらやの約 480 年の歴史のなかで、ねこをモチーフにした和菓子がつくられることはほとんどありませんでした。鶴や亀のように「吉祥」の意味合いを持つ動物でなかったことや、十二支に入っていなかったことが理由と考えられます。本企画展では、パートナーである ilove.cat のデザインをもとに、「ねこ」をイメージした和菓子を新たに考案し、数量限定で販売いたします。



（写真上から）

■外良製『すませば』（生菓子）

（販売期間：2013 年 9 月 25 日～11 月 4 日）

白餡を外良製の生地で包み、紅で色づけをしました。小さな音も聞き逃さないよう耳をすます、猫の姿も想像できましよう。

■特製羊羹（竹皮包）『にけ』

（販売期間：2013 年 9 月 25 日～12 月 16 日）

愛らしい猫の姿は、多くの文学にも書かれています。「猫は上のかぎりくろくて、腹いとしろき。」枕草子の一節に見える、黒と白の二毛柄の猫を、煉羊羹と道明寺で表わしました。

■きんとん製『うたたね』（生菓子）

（販売期間：2013 年 11 月 5 日～12 月 16 日）

三毛猫は日本独特の猫であり、古くから親しまれています。ひだまりのなか、まるまっとうたたねをする三毛猫を、白、茶、橙の三色のそばろで表わしました。

■販売店舗：とらや東京ミッドタウン店

■販売価格：特製羊羹 税込 3,623 円
生菓子 各 1 個 税込 473 円

●展示内容

■ねこと郷土人形

“徳を招く”と言われる招きねこや、伝統工芸として受け継がれてきた郷土人形のモチーフとして登場するねこたち。日本三大土人形と言われる京都の伏見人形や仙台の堤人形をはじめ、日本各地でつくられた「ねこ人形」を18点ほどご紹介いたします。

(一部ご紹介)

秋田県・横手市「中山人形」、岩手県・花巻市「花巻人形」、山形県・米沢市「相良人形猫に蛸」、石川県・金沢市「金沢張子招きねこ・招福ねこ」、東京都・世田谷区「豪徳寺 招福猫児」、京都府・京都市「伏見人形 黒招き猫」、島根県・江津市「長浜人形」、福岡県・筑後市「赤坂土人形」

■日本人が描いてきたねこ

日本人が書物のなかで描いてきたねこの姿を、4つのテーマに基づいてご紹介。一部書籍からねこの記述を抜粋・展示するとともに、書籍も手にとってお楽しみいただけるようご用意いたします。(※敬称略)

◎テーマ1「ねこと日本人が迎える千年の歴史」

源氏物語(紫式部)、枕草子(清少納言)、不思議猫の日本史(北嶋廣敏)等。

◎テーマ2「作家とねこの甘い関係」

ノラや(内田百閒)、猫にかまけて(町田康)、わが思い出の猫猫(伊丹十三)等。

◎テーマ3「学問で読み解くねこの真実」

ネコの毛並み(野沢謙)、猫の民俗学(大木卓)、猫を科学する(紺野耕)等。

◎テーマ4「いつの時代も絵になるねこ」

ねこと国芳(金子信久)、水木サンの猫(水木しげる)、ilove.cat(ilove.cat)等。

■ねこの和菓子のデザイン案

ねこの和菓子を制作するにあたり、「こんなねこ菓子があつたらいいな」という思いから多くのアイデアが出されました。このデザイン案を壁一面にてご紹介します。

■企画展情報■

名 称： 甘いねこ展

場 所： とらや東京ミッドタウン店内 ギャラリー
(東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア地下1階)

会 期： 2013年9月25日(水)～12月16日(月)

時 間： 11:00～21:00(店舗営業時間と同じ)※無休(東京ミッドタウン休業日に準じます)

協 力： ilove.cat<アイラブドットキャット>(敬称略)

取材に関する問い合わせ先

株式会社 虎屋 社長室 広報課 担当：奥野容子

Tel:03-3408-4128

E-mail: kouhou@toraya-group.co.jp